

教育研究大会が始まりました

南部 正人

本校にとって、初夏は教育研究大会の季節といえます。新緑の中、多くの先生方にお集まりいただき附属旭川小学校最大のイベントの一つです。

全国の各大学及び附属学校園は、その研究成果を地域の学校に発信することを使命の1つとしています。そのため、先導的な授業を開発して発信すると同時に、地域の教育委員会や公立学校等において、本校の研究の成果がどの程度活用されているかを把握し、成果の提供先の要望を踏まえてその研究をより深化させるなど、双方向の研究成果の活用サイクルをつくることが求められています。この求めに対し、附属旭川幼小中学校園が組織的・継続的に連携しながら、授業の開発をしております。

例年、6月末に全道・全国から数百名の参加者を集めて教育研究大会を開催してまいりました。しかし、今年度は、例年とは異なり、本校に参加者が集まるスタイルから、オンラインによる開催へと形を変え、6月18日（金）、25日（金）、7月9日（金）、16日（金）の4日間の日程で、遠隔会議システムを利用して開催しております。

この変更は、新型コロナウイルス感染予防対策の意味もありますが、移動時間を必要としないこと、担任をもっている教員も参加しやすい午後日程であること、複数の教科を参観できることなど、従来からの課題やニーズに応じ、より参加しやすく効果的に開催できるよう、検討した結果でもあります。

研究大会の意義は、地域の学校へ先進的な研究成果を発信するとともに、研究成果を基盤とした質の高い日々の教育活動を行うことです。保護者の皆様方には、従来のような、研究大会のお手伝いをしていただいた際に教室の様子を御覧いただくなどの機会はなくなってしまうのですが、附小の中で進めてきた研究を継続していくことにより、お子様が受けている日常の授業の質の維持向上につながっていることを御理解いただきたく存じます。

さて、令和元年から3カ年計画で実施している本校の研究主題は、「探究する子供を育てる教育活動の創造」です。「探究」を軸とするこの研究は、学校目標である「主体的人間の形成」の具現化を目指しています。同時に、これまでの研究成果である、「学びをつなぐ子供を育てる教育活動の創造」などを基に設定しました。

教育用語としての「探究」とは、基礎・基本を習得し、活用・定着させ、主体的により深く広く学習内容を「掘り下げる」という営みです。しかし、全国と比較して学力に課題が見られる北海道では、基礎の習得から先へ進むことが困難な授業が見られます。そうした授業の改善策の1つとして、本校では、もっと知りたい・学びたいという児童の意欲や課題意識を起点に、基礎・基本の習得、身に付けた基礎・基本の活用、児童がより深い「問い」を見いだし解決する探究へとつながっていく授業の在り方を研究し、授業改善を進めています。

今年度も、教育研究大会をとおして最北の附属学校園としての責任を果たし、北海道の教育に役立てていきます。